

学力向上拠点形成事業（確かな学力育成の実践研究事業）
平成18年度中間報告書・平成19年度実施計画書

【推進校】

都道府県名	香川県	番号	37
-------	-----	----	----

推進校名	香川県観音寺市立観音寺東小学校
------	-----------------

I 成果と課題

【成果】

(1) 学びを高め合う授業づくり ～当たり前のことをていねいに根気よく～

- ① 個が伝えたい内容をもつための場や素材の工夫
 - ・児童の身近な体験や教科書の事例をもとにしながら、学習課題をつかませる。
 - ・実生活を想定した具体的な学習活動を展開する。
 - ・深い教材研究と児童理解を背景に、つまずきの予想と賞賛と評価を基本に個に支援する。
- ② 価値ある交流（個の学びを学級に広げ、個の思いや考えをめぐって話し合う）
 - ・児童の共通体験や活動とつないで考えさせる。
 - ・友達との意見の異同を考えながら交流させたりする。

(2) 学びを支える基礎づくり ～集中して、めあてを持って～

- ① 豊かな言語感覚や心情を育み、情報活用能力を身につけるための図書館教育の充実
 - ア いろいろな図書の活用
 - ・国語の教科書に関連したシリーズや掲載された図書 など
 - イ 豊かな言語感覚や心情を育む読み聞かせ活動
 - ・担任やボランティア「はまひるがおの会」のお話会 など
 - ウ 図書を生かした授業実践
- ② 確かなことばの力を定着させ、授業に生かす家庭学習
 - ア 実態把握のためのアンケート
 - イ 自主学習の内容分析と自主学習の勧め（てびきづくり）

保護者のアンケート結果をふまえ、宿題の充実を計ると共に、てびき（Homework Guide）を作り、自主学習を勧めた。同時にホームワークニュースを定期的に発行し保護者啓発に努めた。



(3) 教師力を高める校内研修の工夫 ～意識・スキルの向上～

- ① 視点を明確にさせた授業評価表の活用

授業評価表を作り授業参観の視点をはっきりさせた。結果を数値化することにより授業の成果・課題をはっきりさせ、授業改善や研究の方向性を見極めている。
- ② 全教師の参画型による研究討議

ワークショップ型の研修を実施。参加したすべての教師の意見が反映され、様々な視点から授業をとらえることができた。出された成果や課題を自己の授業改善に役立てている。

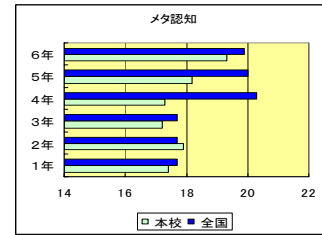
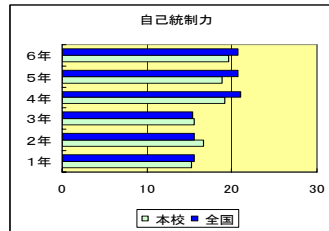
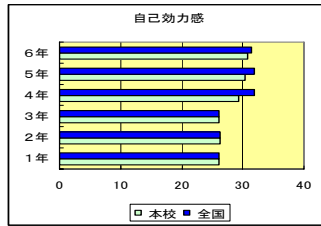
＜校内研修における授業評価表をもとにした各観点に関する振り返り＞

	観 点	評価の平均（4点満点）
1	この題材を学習するねらいを明確にもっている。	3.1
2	聞く・話すなどの伝え合う力を支える態度づくりをしている。	3.0
3	学習者の学習の様子を見て、賞賛や助言が適切にできている。	3.3
4	つなぐ、かかわらせる、変える、繰り返すなどさせながら交流活動を工夫している。	2.9

【課題】

- 高学年になるにつれて学習意欲が低下し、家庭での学習の様子もあまり積極的ではない。これは、AAI（学習適応性調査）から、学習を支える力である「自己効力感」「自己統制力」

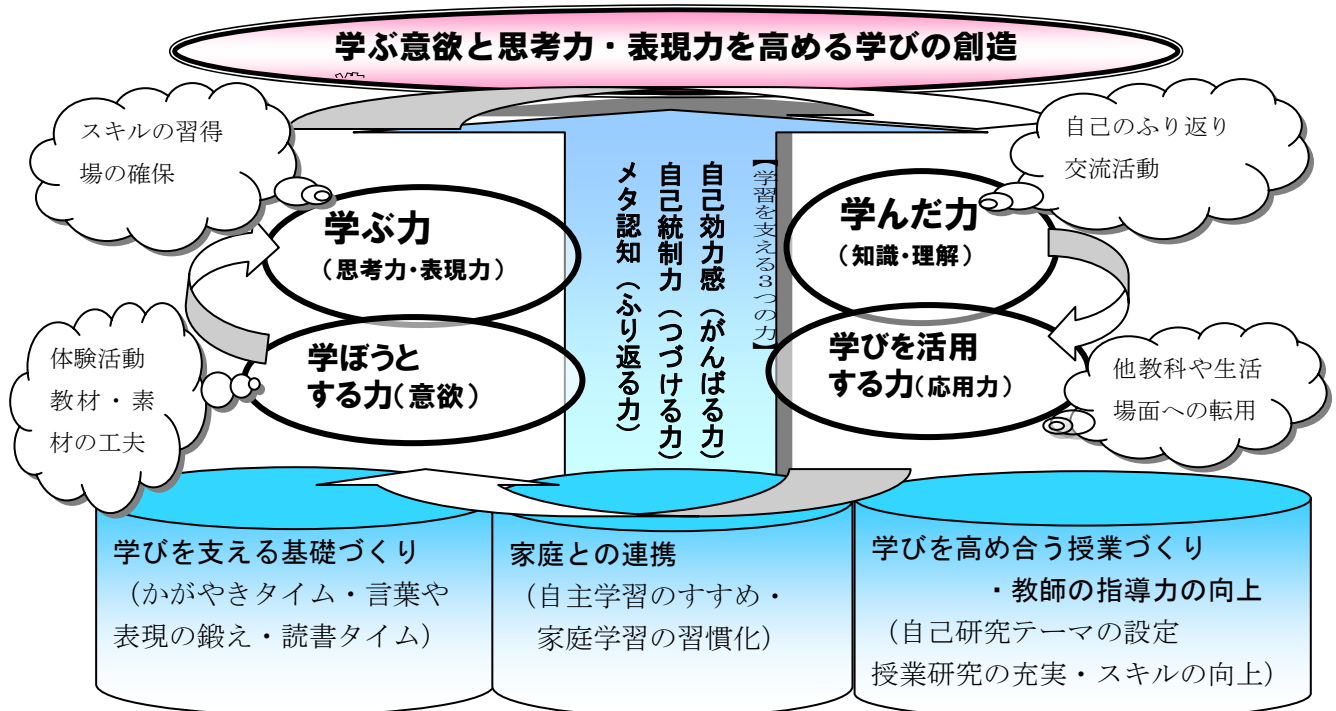
「メタ認知」が十分育っていないためだと考えられる。



II. 平成19年度の実施計画について

①研究の概要

- めざす授業や育てたい力を具体的な子どもの姿として全職員が共有し、より実践的で協働的な研究を推進する。
- 学習を支える力としての「自己効力感」「自己統制力」「メタ認知」を高めるための学習指導のあり方を研究する。
- 家庭との連携を深め、児童が学習意欲を継続できる家庭学習のあり方や良習慣の確立への手だてを探る。



②成果と課題の把握の手立て

- 実態調査・アンケート
 学習への意欲や生活実態を把握するため、質問紙等による調査を行う。その結果を分析し、日常の指導に生かす。
- 評価テストや標準テストによる学力の定着度把握
 全国学力調査や香川県が実施している学習状況調査の結果を分析し、各学年に対応策を考える。
- 保護者による評価・協力体制
 授業参観や学校行事のときには必ず保護者の評価や意見をもらい、それを参考に実践の見直しを図る。
- 学校評議員や外部からの評価
 学校評議員会での成果の報告や外部への発信を継続的に行い、具体的な意見や感想をいただき、内容の見直し改善をはかることに努める。